

みんなで考えよう、霞ヶ浦の水質浄化

日本で第二の面積を誇る霞ヶ浦は、私たちの生活に欠かせない恵みをもたらしています。しかし、家庭からの生活排水などが、さまざまな経路を経て霞ヶ浦に流れ込み、水質汚濁が進み、その浄化対策が大きな課題となっています。

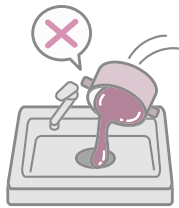
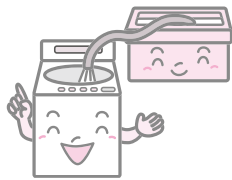
これからも「母なるふるさとの湖・霞ヶ浦」と共存していくためにも、皆さんも身近でできることから取り組みをお願いします。

☎ 環境保全課 (☎826-1111 内線2449)

●私たちにできる霞ヶ浦の浄化対策

家庭でできることがあります

- ◎お風呂の残り湯は捨てずに、洗濯などに使う
- ◎台所に目の細かいストレーナーや三角コーナーを置く
- ◎天ぷらなどの油は、使い切るか固形剤で固めてごみとして出す
- ◎食器に残った食べかすや調味料・油などはふきとってから洗う



日常生活から気をつけていきましょう

～霞ヶ浦や河川の学習会なども行っています～

【身近な水環境全国一斉水質調査】



小学生の皆さんが、市内の河川の水質や、その周辺の植物・生き物などを調査して、身近な環境状況について学ぶ「全国一斉水質調査」に参加しました。

【親子水の探検隊】



船に乗って湖上で水質検査をしたり、講師の方からお話を聞き、親子で霞ヶ浦の現状について学びました。

●ご存知ですか？9月1日は「霞ヶ浦の日」です

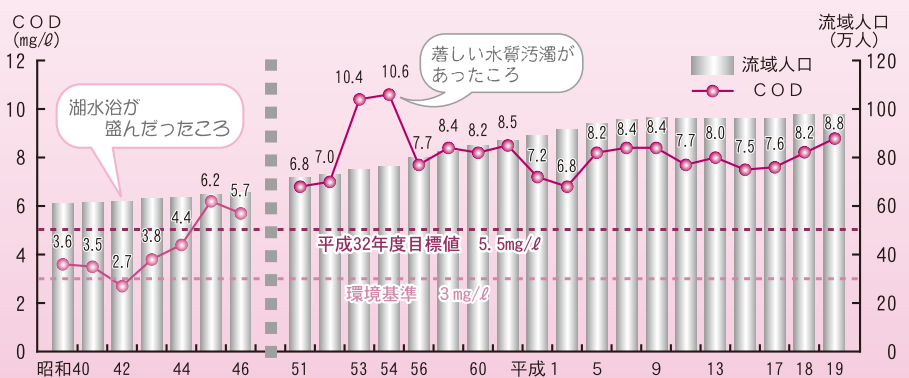
霞ヶ浦は、流域における人口の増加や社会経済活動の進展などにもともない、富栄養化による水質汚濁が進み、特に昭和53年度と54年度は著しい水質汚濁により、きわめて深刻な状況となりました。

このため県は、霞ヶ浦の富栄養化を防止し、環境保全を図るため、昭和56年に「茨城県霞ヶ浦の富栄養化の防止に関する条例」(現「茨城県霞ヶ浦水質保全条例」)を制定、翌57年9月1日に施行しました。

その施行を記念して、9月1日を「霞ヶ浦の日」としました。



霞ヶ浦の流域人口とCODの変化(年平均値)



※COD(化学的酸素要求量)：湖や海の水質汚濁具合を測るうえで最も代表的な指標。この数値が大きいくほど汚濁が進んでいることになります。

※昭和46年度までは西浦湖心の数値を使用し、昭和47年度以降の数値については、霞ヶ浦(西浦・北浦・常陸利根川)の環境基準点の平均値を使用しています。

※「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画(第5期)」の長期ビジョンの具体的な水質目標として、平成32年度にCOD 5 mg/L 台なかば(湖水浴場がにぎわっていた昭和40年代前半の状況)を目指しています。